

第三者研究会での意見の概要及び意見に対する対応状況

1. 第三者研究会の名称（長、構成員並びに開催状況については別紙を添付）	
名称：「マルチモーダルな静脈物流システムの構築に関する研究 ワーキンググループ」	
2. 第三者研究会での意見の概要及び対応	
意見の概要	意見に対する対応状況
<p>線形計画法（LP）モデルで輸送コスト（距離）の最小化のみを目的関数とするのか、或いはそれ以外の要素を織り込むのか。</p> <p>現状での条件設定が妥当なのかどうか、現況再現性をチェックする必要があると思われる。</p> <p>荷姿などの輸送形態を考慮した推計ができればよい。</p> <p>様々なシナリオ設定を行って、それに基づく結果を比較して何らかの次のアクションを考えて行くのが研究手法としてはベターなのかもしれない。</p> <p>結果を公開して様々な批評を受けるべきだ。それによってデータのクオリティが増し、評価に堪え得るものとなる。</p>	<p>LP モデルを使う以上、基本的には輸送コストの最小化を目的関数としてとりあえずの結果を出してみたい。その後、結果によってはその他の手法を検討する余地はある。</p> <p>ご指摘の通り、その点については遺漏のなきよう、今後その具体的手法について検討を進める。</p> <p>輸送機関分担など次のステップに際して、それらの点に留意しつつ逐次改善を図りたい。</p> <p>まずは限定的なシナリオに基づく推計を行い、その結果を踏まえた上で更に様々なバリエーションを検討することとしたい。</p> <p>原則的にその方向で考えている。</p>